

大人向け自然体験“クヌギの森外伝”で醸成する「地域力」

～大人も自然に親しもう～

隠岐の島町立 代表 西郷公民館

1. 隠岐の島町各公民館の概要

隠岐の島町がある島後は島根半島の北東約80kmの海上に位置し、隠岐諸島中最大の島です。島の外周は151km（宍道湖外周の約3倍）面積は242.97km²（琵琶湖の約36%）あります。また西北157kmには竹島があり、五箇地区（旧五箇村）に属しています。

地勢は、ほぼ円形に近い火山島で、隠岐の最高峰大満寺山（608m）を中心に、500m級の山々が連なり、これに源を発する八尾川、重栖川流域に平地が開けています。周囲は複雑なリアス式海岸に囲まれ、天然の良港に恵まれています。また暖流と寒流が交差するため、ナゴランやオキシクナゲなど特有の花や希少動植物が豊富で、学術的にも貴重な地域となっています。これらの雄大で美しい海岸線や、貴重な動植物が生息する山並みは大山隠岐国立公園に指定されています。

町の人口は、現在、約16,500人です。高度経済成長期以降減少が続き、全国に先行して少子高齢化が進行しています。また限界集落に該当する集落も目立ち始めています。

町では西郷、布施、五箇、都万の4地域に公民館を配しています。平成16年の町村合併以前、これらは旧町村の公民館として地域の社会教育の拠点として活動を行っていました。合併以降は地域での活動の他に、4公民館連携しての活動にも力を入れています。

2. 事業の概要

(1) はじめに

隠岐の島町の4公民館では平成17年度以降「クヌギの森にあるもの」事業を実施し、主に町内の小中学生を対象に隠岐の豊かな自然を活用した体験活動を行ってきました。この事業を進めるうちにしだいに判明してきた事が、子ども達の“自然の中でもっと遊びたい”という欲求に対し、親の世代である大人達が十分応えられていないという現状です。既に親の世代から自然体験が不足していて、何をしてあげて良いのかわからないのです。

そこで地域で自然学習を通じて子どもを育成しようにも、教える側に体験・自信が不足している現状を考え、地域の青少年育成力を高めるため、大人達に身近な自然を体験してもらう事を目指し、新たに大人向けの自然体験プログラムとして「2007☆クヌギの森外伝」を行うことにしました。

(2) 具体的な取組

① 「2007☆クヌギの森外伝」

第一段階として、まず大人が自然に親しむことを重視した事業を実施することにしました。具体的にはこれまで「クヌギの森にあるもの」で子ども達を相手にして培ってきたノウハウと実績を生かして、野山に大人を連れ出し、実際に肌で自然を知ってもらう、楽しんでもらう事にしました。

子ども達なら自然に連れ出すだけで、木の実でも棒きれでもおもちゃにして自分たちで

遊びを見つけ無邪気に楽しんでくれるのですが、相手は大人です。やはりそこで何かを学習するとか発見するとか、何かしら社会的に意味のある行為をしないと付いてきてはくれません。幸い隠岐の自然には未だ新発見の対象となりうる動植物、岩石、遺跡などが豊富に存在します。これを利用して調査や発見をメインにした、多少アカデミックな内容の企画を立てていく事にしました。

ア「クロマドボタルを探しに行こう！」

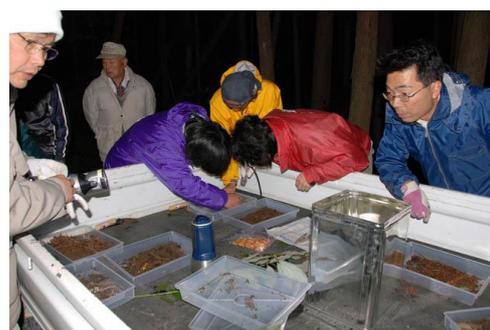
一般にホタルといえばゲンジボタルやヘイケボタルなど、川辺を華やかに乱舞する水生の種類が有名です。しかし日本に約50種いると言われているホタルの内、幼虫時代を水中で過ごすのはほんの数種類のみで、ほとんどのホタルは皆一生を陸上で過ごします。第1回目のクヌギの森外伝では、この陸生ホタルの内、隠岐では未発見のクロマドボタルを探す調査活動を行うことにしました。

調査を行ったのはそろそろ秋も終わろうかという11月16日。既にクロマドボタルの成虫は姿を消しています。幸いにクロマドボタルは幼虫で越冬し、また幼虫も発光する性質があるため、この光を頼りに幼虫を探す事にしました。

調査箇所は林道脇の杉林の中。当然夜の活動です。暗い杉林の中は星の光も届かない真の闇に包まれています。参加した大人の参加者12名は、この中を幼虫の発する微かな光を求め草や落ち葉をかき分けます。

暗闇の中ガサガサゴソゴソと探すうち、「アッなんか光ってる」「容れ物持ってきて」などと言う声が聞こえてきました。早速声の所に急行し、光る物体を回収、ライトの下で確認してみるとうれしい事に何かのホタルの幼虫です。1人が見つけると他の参加者も俄然張り切りだし、この後もあっちこっちでホタルの幼虫が見つかりました。

結局この晩見つけたのはヒメボタルの幼虫が合計20匹余り。目的のクロマドボタルは見つかりませんが、ヒメボタルの幼虫がこれ程大量に見つかるのは貴重な発見でした。また闇の中微かに光る姿は予想以上に参加者の好奇心を惹き付け、皆躊躇することなく真っ暗な森の中に入って行きました。自然を楽しむ導入としては大成功だったのではないのでしょうか。



イ「化石発掘で隠岐の古代を発見しよう！」

隠岐で良く見られる岩石にグリーントフと呼ばれる物があります。グリーントフとは今から2000万年前後の日本海が生まれ始める時代に、火山灰が堆積してできた岩石で、名前の通り薄い緑色をしています。この薄い緑色は淡水の藻の色によるものとも言われ、これを豊富に産出する隠岐は、当時、湖だったと言うことです。事実グリーントフからはたくさんの淡水の生物の化石が出土します。そこで第2回目のクヌギの森外伝は化石を求めて島内各地のグリーントフ堆積地域を廻るツアーを企画しました。

調査は3月9日の午前、午後に2箇所で行いました。午前の調査を行った島内某所のグリーントフは上を流紋岩が覆っていたため、今まで化石が出るとは思われていなかった箇所の物です。参加した大人16人、子ども2人は石を拾い、ひっくり返し化石らしき物を探します。やがてあちこちから「これ化石じゃないですか」と割れた石を持って参加者がやってきます。ルーペで見ると確かに葉っぱや木片の化石です。参加者の手による新発見はあっけない程簡単に達成できたようです。見つかったのは葉っぱや木片の化石だけでしたが、この午前中だけで数十点の化石を発掘できました。



午前の発掘を終えると近くの農園で昼食、農園で収穫したばかりの野菜をたっぷり使った煮込みうどんを食べ、しばしの休憩の後、午後の発掘現場に向かいます。午後の現場に着いた一行は午前同様、目当てを付けた石をひっくり返し模様の変化が無いか探します。程なくして今度は貝殻の化石を発見しました。一箇所で見つければ周辺からも大量に2枚貝、巻き貝の化石が見つかります。やはり葉っぱや木片の化石より、貝でも動物の化石の方がうれしいものです。皆夢中で今度は魚の化石でも出ないかと石拾いに没頭しました。

魚こそ出なかったものの、大物の貝殻も見つかりいい思い出となりました。参加者には貴重な体験をしてもらったと思います。



3. 事業の成果

2回とも多少専門的過ぎるかもと心配しましたが、参加者に高い関心をもって参加してくれています。1回目が面白かったので2回目にも参加した人も数名いました。今後ともこの路線で更に関心を深めていければと思います。

事業の狙いが、大人の自然への関心を高め、自然に対する経験や感性を豊かにし、それによって子ども達のよき指導者となり、地域の力を醸成するといった遠大な物です。とりあえずこの半年の事業では、最初の目標である自然への関心を高める事はできたと思っています。

4. 今後の課題

やはり参加者には継続参加してもらいたい事が大切かと思えます。2回目はちょうど各種イベントが重なり、1回目の参加者の中にも参加できない人が多数おられました。日程の調整なども課題になります。また参加者を増やす事も今後の課題です。周知等をもっと工夫し、「クヌギの森外伝」の認知度を広める事が必要となるでしょう。